

豊岡地区まちづくり懇話会

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）14：00～

場 所：豊岡公民館

テーマ：高齢者が元気で明るい地域づくり

[対応方針・対応状況]

①居場所づくり（サロン）について

＜参加者の発言要旨＞

小さくても歩いて行けるところに、気の合う人たちが集まれるような場所があると良いと思います。そういった場所を作る際には、支援をしていただけないでしょうか？

＜市側の発言要旨＞

集いの場を設置するにあたっては、かかる費用や運営費についても、行政として何らかの支援ができないか検討したいと思います。

◇対応方針・対応状況

現在、市内各地で高齢者が気軽に集えるサロンの開設が地元の方によって進められています。今のところ、サロンの開設費等への助成制度はありませんが、サロンは高齢者の健康づくりや孤独感の解消、また、介護予防、さらに地域のつながりを強化するためにも、開設を進めるべきと考えています。このため、サロンを運営していただける担い手の育成を進めるとともに、サロン開設費等への助成制度について検討したいと思います。

なお、サロンの開設を考えている方のために、先進事例について広報紙等でお知らせする予定です。

②低速電動バスの導入について

＜参加者の発言要旨＞

日光駅から二社一寺に行くメインストリートは、電線が地中化されて道幅が広がっているので、地域の高齢者や観光客の交通手段として、群馬県桐生市で運行されている低速電動バスを導入してはいかがでしょうか？

＜市側の発言要旨＞

低速で運行するバスは、周りの景色を楽しむこともできますし、ゆっくりと会話を楽しみながら買物に行くことができるなど、単なる移動手段ではなく、いろいろな意味を持つものだと思います。しかし、導入するにあたっては、地域によって、何を目的にどういったものが必要なのか検討する必要があると考えています。

◇対応方針・対応状況

ご提案いただいた、日光駅から二社一寺間では、生活路線バスや世界遺産めぐりバスなどの観光路線バスなどが運行し、日光駅から鬼怒川温泉間においても観光路線バスが既に運行しています。

観光客の二次交通は観光都市である本市といたしましても重要な課題であり、観光関係者と十分に協議し、研究しています。

低速電動バスについてですが、日光地域、特に山内は地形勾配も急であることや、一回の充電走行距離の制限、コスト面などから、公共交通として稼働することは難しいと考えています。ただし、イベント等で平地を走らせようとの試みがある場合には、関係部局で協議し、対応等を検討いたします。

③杉並木大学校講座について

＜参加者の発言要旨＞

市が行っている杉並木大学校の講座について、栃木県シルバー大学校の講座のように地域の手助けに繋がるものや給料が得られる仕事に繋がられるような講座を増やしてはいかがでしょうか？

＜市側の発言要旨＞

杉並木大学校の卒業生の中にも子どもの書初め教室で指導するなど、身に付けたことを活用していただいている方もいます。講座の種類などについては、杉並木大学校の魅力が出せるよう研究し検討したいと思います。

◇対応方針・対応状況

日光市杉並木大学校は、生きがいのある豊かな人生の創造のため、高齢者に学習の場を提供し、受講生が本大学校で得た知識、技術を生かし、自らの生きがいとして社会参加する一助となることを目的としています。

一方、栃木県シルバー大学校は、積極的に地域活動を実践する高齢者の方々を

養成することを目的としています。

このように、設置の趣旨も異なりますので、ご自分の目的に応じて大学校をご利用いただければと考えています。

なお、杉並木大学校の受講生には、小学校との連携において、サマースクールでの習字や絵画の指導・アドバイスの協力をいただいております、自ら学んだことを地域の中で生かす機会もあり、生きがいづくりに寄与しています。

杉並木大学校の講座の種類増や見直しについては、入学者数の動向や受講生等へのアンケート等により、今後検討いたします。